Q **~** 

## **星メディカル**

Ţ

## 念 医師 若手医師・医学生 看護師 薬剤師

eディテール

医師TOP

NEWS & REPORT

連載・コラム

特設サイト (医療経営/癌 他)

学会カレンタ

☆ ➤ 医師TOP ➤ REPORT ➤ 向精神薬になったデパス、処方はどうする?

**REPORT** 

⊕ 連載をフォロー

トレンド

ベンゾジアゼピン系薬の安易な処方に

警鐘

## 向精神薬になったデパス、処方はどうする?

2016/11/22

増谷彩=日経メディカル

☆精神・神経

🖶 印刷

シェア 0

ツイート

実際に、静岡がんセンター食道外科では、上記の取り組みを行う前の2012年1月~2013年10月に咽頭喉頭食道摘出術を行った患者のうち、術前にベンゾジアゼピン受容体作動薬(エチゾラムなど)を内服していた26例のうちせん妄を生じたのは9例(34.6%)だったが、ラメルテオンのみで切り替えた2013年11月~2015年2月では23例中2例(8.7%)に減り、ラメルテオンとスボレキサントで切り替えた2015年3月~8月では13例中せん妄を生じた症例は1例もなかった。松本氏は、「せん妄は多因子によって起こるものだが、睡眠薬を切り替えることでせん妄の発生が抑えられたり軽症化する症例が多く存在するため、医療安全にも寄与している」と手応えを感じている。

退院時は「眠れるようになったら、中止してかまいません」「従来の睡眠薬は依存性があるので、控えてください」と伝え、ラメルテオンを処方。必要があれば、ベルソムラも加える。睡眠が取れていれば様子を見ながらまずはスボレキサントを、次にラメルテオンを中止する。松本氏は、「これらの新規睡眠薬は、自宅に戻って3カ月以内に自己判断で中止できる人が大勢いる」と言う。

3年前から不眠があり、かかりつけ医からエチゾラムを処方されている高齢者が、夜間トイレに行く途中に転倒して大腿骨頸部を骨折。そのまま手術のために入院した病院で、睡眠確保のためにエチゾラムの内服を継続したが、術後に激しいせん妄を起こして鎮静薬を投与され、さらに安全確保のため身体抑制を要した。せん妄はなかなか改善せず、鎮静から誤嚥性肺炎を起こしてリハビリも進まず、退院が長引いた。やっと退院できるようになったときには認知機能が低下しており、自宅退院は叶わなくなった――。こんな不幸な転帰は、漫然とした長期処方を見直すことで防げるかもしれない。

なお、ゾピクロンの光学異性体であるエスゾピクロン(商品名ルネスタ)は今回、向精神薬の指定がなされなかった。この点について国立精神・神経医療研究センターの松本氏は、「エスゾピクロンは発売されてから間もなく、調査にも上がってこないので、まだ根拠が不十分であり、今回は指定を見送ったのかもしれない。しかし今後、ゾピクロンの投与期間が制限されたことでエスゾピクロンが乱用されるようになれば、規制の対象になるのかもしれない」と話している。

■訂正 2017.01.12に以下の訂正を行いました。

2ページ目第3パラグラフ冒頭に「ベンゾジアゼピン系薬は骨盤や大腿骨の骨折リスクをオッズ比で1.9倍増大させると報告された」とありましたが、正しくは「ベンゾジアゼピン系薬は骨盤や大腿骨の骨折リスクを1.33倍増大させると報告された」でした。お詫びして訂正します。



シェア 0

) ツイート

## ┃この記事を読んでいる人におすすめ

REPORT

ナルコレプシーを逆手に取った新睡眠薬が登場

2014/10/07

2015年3月号特集◎攻めの不眠診療

睡眠薬は「休薬」を視野に導入

2015/03/13

REPORT

入院中のせん妄はラメルテオンで予防できる!

2015/04/16

記者の眼

睡眠薬・抗不安薬の乱用に歯止め掛かるか

2016/10/06